

A study of difficulties experienced by childcare workers in informing parents of their children's need for special care: through focus group interviews

メタデータ	言語: eng 出版者: 公開日: 2017-10-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/45274

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



平成 28 年 2 月 22 日

博士論文審査結果報告書

報告番号

学籍番号 1229022009

氏 名 橋本 逸子

論文審査員

主 査（職名） 表 志津子

副 査（職名） 木村 留美子

副 査（職名） 加藤 真由美

 教授
 教授
 教授

論文題名 A study of difficulties experienced by childcare workers in informing parents of their children's need for special care: through focus group interviews

論文審査結果

【論文内容の要旨】

近年、対人社会性の問題や認知能力に問題を抱えた「気になる子ども」が増加し、保育や教育現場での集団活動に大きな支障を来している。しかし、このような子どもが早期に発見される割合は未だ低く、保育・教育の現場は混乱を極めている。さらに、保護者はこれらの問題に気付いていない場合が多く、このような保護者への対応や介入の難しさが問題となっている。そこで、本研究では「気になる子ども」の保護者に、子どもが抱える問題を伝える際の保育士の困難感について Focus Group Interview を用いて調査を行った。調査期間は 2014 年 7 月から 2015 年 1 月であり、保育士 22 名によって語られた 207 件の内容を Mayring の質的研究に基づいて分析した結果、16 のコードから 6 つのサブカテゴリーが抽出され、最終的には「保育士のスキル不足」、「保育士と保護者の良好な関係の不足」、「保護者の心身の安定の不足」の 3 つのカテゴリーが抽出された。保育士が保護者にとって受け入れ難い問題を伝え、専門機関の受診へとつなげるには、保護者と保育士の間の信頼関係、また発達障害に対する保育士の専門的な知識の重要性が示唆された。

【審査結果の要旨】

本研究は、今後保育士養成校のカリキュラムや、現場での専門家の教育に活用し、より有効な保護者支援へと発展させるための基礎的な研究として有意義であると判断された。また、公開審査会における質疑応答では、研究方法や今後の研究の発展性等について質問を受け、的確な回答を行った。

以上、学位申請者は本論文審査、及び最終試験の状況に基づき、博士(保健学)の学位を授与するに値すると評価する。